

神戸学院大学

キッズ・バードの道徳

加藤アイナ先生の道徳講座

本学の人間心理学科では、3、4年生を対象とした「特別支援教育における教育補助」というインターンシップ授業を開講しています。これは神戸市教育委員会が2002年度にスタートさせた「通常の学級におけるLD(学習障害)等への特別支援事業」と連携した授業です。大学生が神戸市の小中学校で、各校の先生の指導を受けながら特別な教育的ニーズがある児童

・生徒の支援を行います。大
学は、参加学生に事前指導するとともに、学校現場で活動を続けるために必要な指導も授業として行っています。また、大学教員は、巡回相談員として年に2回、小中学校を訪問し、児童・生徒らの様子を参観し、現場の先生への助

「育ち」助ける喜び感じて

インターンシップ授業



人文学部 道城裕貴講師

言を行います。つまり、教育委員会、小中学校、大学が連携した取り組みと言えます。参加学生は、週1日、朝8時過ぎから夕方まで、小中学校で支援活動を行います。学校では、先生の指示に従うのはもちろん、自分で適切な判断をして動くことも求められます。朝会台の上でのあいさつや子どもたちのケンカの様子

裁など、大学の授業を受けるだけでは体験できない、初めてのことがたくさんあるようです。

また、学校の先生と接することで、社会性や礼儀も身につけていくように思います。当初は、学生も緊張していましたが、すぐに楽しそうに通い始めます。この授業に参加することで、教職の道に進んだり、子どもの育ちを支える専門的な仕事を選ぶ学生も

多くいます。実は、かつて私もそういった学生の一人でした。現在、神戸市と明石市の巡回相談員を務めています。

学生には、特別な教育的ニーズがある子どもたちや発達障害についての専門的知識を深めてほしいとの思いがあります。「みんなちがって、みんないい」という特別支援教育の基盤となる考え方を実践の中で学び、今後も広い意味で地域の子どもの育ちを助ける喜びを感じてほしいと願っています。